

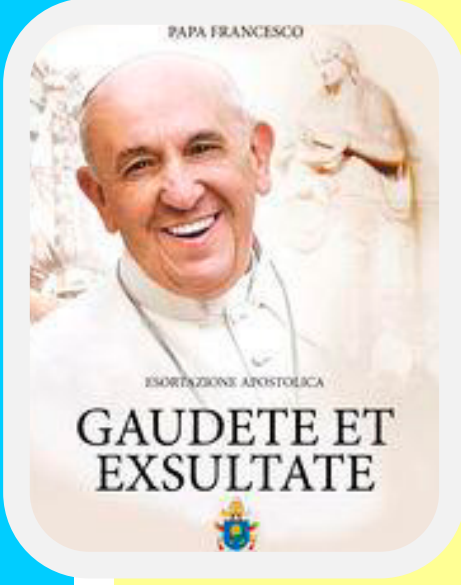
CAGLIERO

サレジオ会
宣教ニュース

N.122 - 2019年2月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



親愛なる会員、友人の皆さん、

今

年2019年、私たちはストレンナ「聖なる者になろう」に根を下ろしていますが、
教皇フランシスコが『喜びに喜べ Gaudete et Exsultate』で示している真福
八端を再発見するよう、皆さんを招きます。その一つひとつについて、サレジオ
の宣教の解釈あるいは適用を考えることができるでしょう。その最初のものはこれです：

「貧しい人々は、幸いである。神の国はあなたがたのものである。」(ルカ6・20)

「貧しさを心にもつこと、それが聖であるということです。」(『喜びに喜べ』70)

私たちに投げかけられている挑戦は、貧しさを心にもつサレジオ会宣教師になること
です。この貧しさは、ドン・ボスコの10のダイヤモンドの夢のように、目に見える側面と
隠れた側面とがあります。目に見える側面は何よりも、「仕事と節制」、日々の coetera
tolle、個人として貧しい生活を心から愛することです：「あなたたちの衣食住が質素で
あることを世に知ってもらいなさい」(聖ヨハネ・ボスコが最初の宣教師に与えた勧告、
会憲会則「著作選集」)。しかし、この貧しさには隠れたダイヤモンドもあります。その奥
深い秘義です：「主は豊かでありながら、わたしたちのために貧しくなり、ご自分の貧しさ

によってわたしたちを豊かにしようとされた」(聖パウロ、会憲第72条に引用)。ですから、

貧しさを心にもつ者でありましょう；これはすべてのサレジオ会宣教師の最も尊い秘義です！

宣教顧問 ギジェルモ・バサニェス神父

「Coetera Tolle すべてを取り去りたまえ」はドン・ボスコのモットーに含まれていましたが、ドン・ボスコは大変実
際的で、地に足がついていました。「貧しく見捨てられた少年たち」のための資金調達では、極めて優れた手腕
を発揮しました。私たちはこの点でもドン・ボスコに倣いました。

人々の価値観、姿勢、メンタリティーはどんどん変化しています。今日、寄付をする人は、苦勞して得たお金の最善の使い
みちを保証するテクノロジーを手にしています。宣教事務局 (Procura) はサレジオ会が必要とする資金の一部を動かして
います。それは世界に開かれた私たちの窓であり、サレジオ会と社会の人々の相互作用を生み出しています。

宣教部門は、2019年1月17日から19日にかけて、宣教事務局の世界会議をローマで開催しました。45か国で働く54の
管区から、89名のサレジオ会員と協働者が参加しました。使徒職、奉仕職、聖性への道としての資金の動員について、私た
ちは考察を行いました。教会の社会教説を、またサレジオ的な資

金調達の特徴について学びました。私たちの価値観、方

針、仕事の基準に目を向けました。会員養成のための

物的必要をどのようにまかなうか、方法を考えまし
た。互いのネットワークを強化しました。立ち向かっている挑戦につ
いて分かち合い、互いに学び合いました。

財務顧問は会の財政状況について、それに取り組む私たちの戦略につ
いて情報を分かち合いました。宣教顧問は、宣教会としての私たちの優先
事項に光を当てて語りました。総長はまる一日、私たちと共に過ごし、自身
のビジョンを伝えて私たちに触発し、積極的な参加を通して私たちの熱意
を鼓舞してくれました。

ジョージ・メナムパラムビル神父

世界に開かれた窓



海外ad gentes宣教師の喜びとチャレンジ

私

はバ・トンでの修練期のことをよくおぼえています。フランシス・ニャット神父(アフリカで働く宣教師)が、ベトナムで自身の司祭叙階の準備をしていました。ある日、ニャット神父は、南スーダンでのミッションについて私たちに話してくれました。私は感動し、「海外宣教師になろう!」と思いました。その望みが私の心にすでに燃え立っていましたが、まず勉学を終えなければなりません。その間、共同体の人たちとより親しくなるため、いっそう努力を傾けました。なぜなら、宣教師になったなら、その生活をより実り豊かなものにするには、実に多様な人たちを受け入れる必要があるとわかってきたからです。

宣教に遣わされているなら、その環境から、また若者から学ぶことが非常に大切です。東洋人はより内省的ですが、西アフリカの人はいっと外交的です。アフリカの人々は一般的にとってもフレンドリーで社交的です。アフリカで私たち宣教師がいつも歓迎されることは、良い点です。

アフリカの若者が人生の困難に勇気と積極的な姿勢で立ち向かうのを見て、すばらしいと思いました。その苦労は人を形づくり、可能な機会を逃さないように、より積極的にさせます。この若者たちは権利のために闘います; スポーツをするときはエネルギーにあふれています。会合では自発的に発言して自分の意見を表明し、クラスメートがどう思うかなど恐れたりしません。

将来の宣教師へのアドバイス

- 宣教地に送られたとき、そこで目にする現実が想像していたものと違って驚かないでください。新たな宣教地に開かれた心・精神で入ってください。
- 自分自身を、そして人を世話することを学んでください。なぜなら、人が私たちの世話をしてくれることは期待すべきではないからです! 人に心をかけるようにしましょう。そうすれば、よりたやすく人々の“石の”心を溶かし、友だちになることができますでしょう。
- 自分の意見を、謙虚に言い表しながら分かち合しましょう。共同体をつくり上げる提案をしましょう。会合の中で、すべての問題が取り上げられるように気を配りましょう。
- 書き終える前に祈りについて触れなければ、宣教生活の意味そのものに触れずに終わることになるでしょう。確かに、困難に出遭うとき、私が真っ先にお話しするのは神であり、神は私のことをいちばんよくわかってくださいます。同じように、幸いな時も、私が真っ先に喜びを分かち合うのは神です!



ベトナム出身、ナイジェリアの宣教師 トマス・ファイ神父



聖カリスト・カラヴァリオ(1903-1930)

聖ルイジ・ヴァリアラと共に中国で殉教したサレジオ会殉教者の初穂。1929年5月29日、司祭叙階の日、母親に書き送りながら、この預言的な言葉で自らの心を言い表している:「今後は、私が聖なる司祭、周りの人々のための良い模範となるよう、主のみ旨に全面的に献身するよう祈るほかは、何も考えないでください。私の司祭職が長く続くか、それとも短いものになるか、わかりません。大切なのは、私が良く働き、主のみ前に出たとき、いただいた恵みを主の助けによって豊かに実らせました、とすることができることです。」

サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエルルイジ・カメロー二神父

人身売買



サレジオ会の宣教の意向

人身売買、強制売春、暴力の犠牲者に寄り添い、迎えるために

世界各地のサレジオ会は、これら搾取や人身売買の阻止と、その犠牲となった少年、少女、若い男性、女性の更生にたずさわっています。その働きのために祈りましょう。その現場が傷をいやす香油、学びの学校、まことの愛と未来の希望を体験する家庭となりますように。

